

◆仮設住宅の現状とこれから



福島県社会福祉協議会
常勤副会長 岩下哲雄氏

仮設住宅の今後の課題となるのは、被災者の「孤立」への対策です。

阪神・淡路大震災では孤独死された方が多くいました。

その教訓から、福島県では167人の「生活支援相談員」を配置し、仮設住宅を定期的に訪問し、安否確認や相談支援を行なっていく予定です。

それに際しては、すでに仮設住宅でさまざまな活動をされているボランティアや専門家の方々との協力が不可欠です。

いまだ原発の終息が見えず、福島県には異様な緊張感があります。

多くの人が震災によって職を失ったり、原発の影響から子どもが他県に避難し家族がバラバラになったり、さまざまな風評被害や中傷を受けたり、福島県は苦境に立たされています。

まだまだ時間はかかりますが、これからの生活を見つめ、人生を取り戻す活動を、着実に進めていかなければなりません。

いわて生協・「バスボランティア」継続実施中

いわて生協コープ・ボランティアセンター（CVC）は、6月よりバスボランティアを実施してきました。これは盛岡市からバスで被災地に行き、日帰りでボランティア作業に従事するものです。9月24日実施のボランティアで26回目となりました。参加費は無料。毎回30人が参加、累計では700人近くになります。活動内容は、がれきの分別や、塩害を受けた農地を回復させるための菜種の栽培など多岐に渡り、その日その日に必要とされている活動が、現地の災害ボランティアセンターより振り分けられます。

24日は、総勢36人が午前6時30分に盛岡市内を出発し、陸前高田市に向かいました。午前中から午後3時まで、海岸沿いのがれき集積所跡地で、重機が取りきれなかったゴミや石を回収し、草刈りを行ないました。初めて参加した高校3年生の大西拓人くんは「来てよかった。みんなにこの体験を話して、友達を連れてまた参加します」と話していました。

同ボランティアは、10月に12回、開催が予定されています。

【お申し込み・お問い合わせ先】

いわて生協 組織本部 組合員活動支援チーム
Tel. 019-603-8299（月～土曜日の9時～18時）
Fax. 019-687-1117



可燃・不燃ゴミ、石、草木を分別しながら回収。

コープふくしま・仮設住宅で「茶和会」開催



お茶を楽しみながら、悩みを共有。



福島県産の食品をテーマにしたコープふくしまオリジナルのカルタを楽しむ。

9月21日、福島県大玉村にある仮設住宅で、コープふくしまのボランティア活動「茶和会」が開催されました。台風15号による悪天候の中、6の方が集会所に集まり、生協職員や組合員理事と共に自由にお喋りをしました。

仮設住宅で暮らすのは、原発の放射線漏れで退避した「浜通り」に住んでいた方がほとんどです。参加した方々は、家に置いてきた位牌のことから近所付き合い、また、今後直面する豪雪や寒さに関する生活相談など、悩みを共有し合っていました。「家に帰り、元の生活をしたい」という切実な声も聞かれました。

「茶和会」は郡山市緑ヶ丘の仮設住宅でも行なわれており、毎週40人近い方が参加し、お喋りや趣味を楽しむ場となっています。大玉村の仮設住宅では今回が初めての試みでしたが、今後参加者が増え、人と人とを結びつける、自立へ向けての助け合いの場になっていくことが望まれます。（左欄にて、仮設住宅の今後の課題についてのインタビュー記事掲載）